

使徒言行録 13章 36節～43節。ダビデは、彼の時代に神の計画に仕えた後、眠りについて、祖先の列に加えられ、朽ち果てました。しかし、神が復活させたこの方は、朽ち果てることがなかったのです。だから、兄弟たち、知っていただきたい。この方による罪の赦しが告げ知らされ、また、あなたがたがモーセの律法では義とされえなかったのに、信じる者は皆、この方によって義とされるのです。それで、預言者の書に言われていることが起こらないように、警戒しなさい。『見よ、悔る者よ、驚け。滅び去れ。わたしは、お前たちの時代に一つの事を行う。人が詳しく説明しても、／お前たちにはどうてい信じられない事を。』」パウロとバルナバが会堂を出るとき、人々は次の安息日にも同じことを話してくれるようにと頼んだ。集会が終わってからも、多くのユダヤ人と神をあがめる改宗者とがついて来たので、二人は彼らと語り合い、神の恵みの下に生き続けるように勧めた。」

パウロは、救いの言葉である主イエスが遣わされたが、エルサレム神殿当局者と彼らに組する人々は主イエスに罪を負わせ、ピラトによって十字架で殺した。しかし、その主イエスを神は復活させたと語った。このことは旧約聖書に預言されていたことの実現であると力説した。そして、上記の最後の説教に続いていく。

ダビデは、彼の時代に神の御心に従い仕えた後、眠りについて、先祖の列に加えられた。あなた方の尊敬するダビデは死んで、朽ち果ててしまった。しかし、神が復活させた主イエスは朽ち果てることがなかった。ダビデは人であるから朽ち果てたが、主イエスは神の子であるから朽ち果てることなく、復活した。ダビデと主イエスの質的な違いを語っている。そして「だから、兄弟たち、知っていただきたい」と特別に注意を喚起し、「この方による罪の赦しが告げ知らされ、また、あなたがたがモーセの律法では義とされえなかったのに、信じる者は皆、この方によって義とされるのです」と続けている。この言葉は、最高法院でのペトロとステファノの説教にはない。パウロの手紙を読むと、この言葉こそがパウロの信仰の核心であり、福音そのものである。

主イエスの十字架と復活によって、罪の赦しが告げられている。律法厳守では到達できなかったが、信じる者は皆、神に義とされ、あるがままのあなた方を「よし」と是認される解放の福音であった。厳格な戒律主義、度を越える献身を求められていたユダヤ教徒たちは驚いたことだろう。彼らはモーセの十戒を中心にした律法を守ることによって、神からの義に与ると信じていたからである。

そしてパウロは、ハバクク書 1章 5節の「見よ、悔る者よ、驚け。滅び去れ。わたしは、お前たちの時代に一つの事を行う。人が詳しく説明しても、／お前たちにはどうてい信じられない事を」を引用している。ハバククは、神はお前たちの時代に人が説明しても信じられない一つのことを行われると預言したが、主イエスにおいて、そのことが起こった。これこそが福音であるから、悔ることなく受け入れよと勧めている。

パウロとバルナバが会堂を出た時、聞いたことがない説教を聞いた人々は次の安息日にも同じことを話してくれるようにと頼んだ。集会が終わってからも、興奮した多くのユダヤ人（ディアスポラのユダヤ人）と神をあがめる改宗者（ユダヤ教に改宗した異邦人）が二人を取り巻き、語り合った。二人は彼らに、神の恵みの下に生き続けるようにと勧めた。ピシディア州アンティオキアの会堂でのパウロの説教は大きな反響を呼び起こした。